

はじける笑顔は、まちの宝物



輝く令和の子どもたち



市民の皆さまには、令和に元号が変わった初めての新年をお健やかに迎えることと心からお慶び申し上げます。旧年中は、市議会に対しまして温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、台風15号、19号など多くの台風が襲来し、日本各地に甚大な被害をもたらしました。改めて、常日頃の危機管理の重要性を認識するとともに、自然災害から市民の皆さまの生命、財産を守るため、迅速な対応の必要性を痛感しているところでございます。

さて、本市におきましては、市民の皆さまの期待の市民文化ホールが完成し、既に数々のイベントが開催され、本市の文化の情報発信拠点として、また、芸術の殿堂としての地位を確立しつつあります。

また、「ものづくり産業」の一大集積地として発展してきた東予地方東部を舞台にした「えひめさんさん物語」による、さまざまイベントが開催され、本市の魅力を全国に発信でき、大いに知名度が上がったことと思っております。さらに、本市で初めての公立認定こども園となる土居東認定こども園の完成、全小中学校へのエアコン設置並びにブロック塀の改修による小中学校の快適性・安全性の確保など、子どもたちの教育環境は着実に改善されつつあります。

市議会におきましては、自然災害に対応するため、昨年9月に議会業務継続計画（議会BCP）を策定し、県下で初めてタブレット端末を使用し、災害時の初動期対応訓練を実施し、実効性を検証いたしました。また、昨年8月には初の女性議会を開催し、女性の視点から見た行政への提言の場を設け、女性の市政への関心を一層高めることができ、議会改革の目標の一つである開かれた議会を一步前進させることができました。

今後、市議会の役割を十分認識し、市民の代表として、決意も新たに全力を尽くしてまいりますので、どうかこれからも、力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、新春を迎えまして、市民の皆さまのご多幸、ご健勝を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



四国中央市議会議長
石津 千代子

令和2年が始まりました。たくさんの方があつた元年が去り、落ち着いた年号のもとで、市町村合併という荒療治を乗り越えつつある四国中央市の未来を再構築していく年になっていくのではないかと思っております。

四国中央市が誕生して、もう16年になろうとしています。多くの市民のみなさんご支援ご協力をいただき、完璧ではないものの、それなりに順調に推移していると思っておりますが、合併以前からの課題がそのまま残っていることが多くあります。そのことが本邦にとつて岩盤のような難題であろうが、砕いていかなければならぬと改めて気づかせてくれたのが、昨年の東予東部圏域振興イベント「えひめさんさん物語」でした。中村知事のリーダーシップのもと、3市が連携して、われわれ市長も連帯を深め、210日あまり活動してきました。

私は、本市の嶺南地域、新宮地域の資源、財産に改めて気づかされました。それとともに、先人のみなさん、現役のみなさんが作ってくれている、この地域の産業力に頭の下がる思いでありました。歴史、人間、自然が混然として、まちの活力を生み出していると感じました。災害に備えた海岸線の強化、地場産業の6次化、港湾の整備、国道319号の整備、教育環境の見直し、基幹道路の延伸、医療環境の改善、体育施設の高度化、幼児教育の充実など、発展途上の四国中央市には、新たな課題が山積しております。

旧の伊予三島市庁舎の竣工記念として植えられたケヤキの木を、立体駐車場の入口の横に残していただきました。葉っぱを落とし、春を待っています。ぜひ本年が、市民の皆さまにとつて一歩でも暖かく、ほのぼのとする年でありませう心より祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。



四国中央市長
篠原 実

新年のごあいさつ